

特集：国際学会に参加する

International Conference in UK

国際学会に参加
その目的は

事前準備の
ポイントは…

英語のヒアリング力を
アップしたい…

用意した原稿を
上手く伝えたい…

特集は裏面へ！



謹賀新年

本年もどうぞ
吉田南総合図書館を
よろしくお願い致します。
新年ははじめの特集は「学会」。
英国での学会発表に挑んだ
人環院生さんからのレポートです！

しょうようかん

京都大学 吉田南総合図書館（愛称：逍遙館）

〒606-8501

京都市左京区吉田二本松町

Tel : 075 (753) 6524, 6525

Fax : 075 (753) 6896

Email : eturan61@mail.adm.kyoto-u.ac.jp

HP : <http://www.kulib.kyoto-u.ac.jp/yoshidasouthlib/>Blog : <http://yoshidasouthlib.hatenablog.jp/>

Twitter : @yoshidasouthlib

HP



Blog



冬季特別貸出を終了します

冬季特別貸出が終了します！返却し忘れることのないようご注意ください。読み終わった本はお早めに図書館までお持ちください。

下記期間に貸出・更新された本が対象です。
特別貸出の図書は更新出来ませんので
全て【1月13日(水)】までにご返却ください。

学部生：12月11日(金)～26日(土)

院生/教職員：11月26日(木)～12月12日(土)

※返却期限日を超えて借用された場合、
貸出超過期間と同じ期間
資料の貸出が出来なくなります。



グレート・ブックス関連企画「グレート・ブックスと私」第2回：講演会

私たちが、グレート・ブックスを読む意義とは何でしょうか？
今まで出会ったグレート・ブックス(古典)が、その後の生き方や
研究生活にどのような影響を与えたか、先生の実体験から語っていただきます。



講演タイトル：「老子・萩原朔太郎」
日時：2016年1月28日(木) 18:30-19:30
場所：環on(人間・環境学研究科棟1F東側)
講師：安部浩 先生(人間・環境学研究科 准教授)

＜申込方法＞事前予約優先制です(定員30名)。
メールにてお申し込みください。
定員に達しない場合は当日も参加可能です。
メール：eturan61@mail.adm.kyoto-u.ac.jp
件名を「グレート・ブックス講演会」とし、氏名、ご所属を
お知らせください。

Follow me ! “@yoshidasouthlib”



第9回グレート・ブックス読書会

コーディネーターに阿部将伸さん(人間・環境学研究科修生、博士(人間・環境学))をお迎えし、「ソクラテスと「哲学の始まり」ー『ソクラテスの弁明』を読む」を開催します。

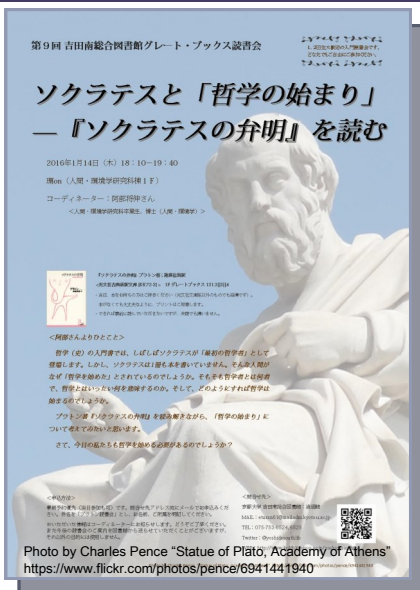
日時:2016年1月14日(木)18:10-19:40
場所:環on(人間・環境学研究科棟1F東側)

書名:『ソクラテスの弁明』プラトン著;納富信留訳
(光文社古典新訳文庫[KBフ2-3])
<1Fグレートブックス 131.3||S||4 >

※本を持参できる方はお持ちください。光文社文庫版でなくても結構です。

＜申込方法＞事前予約優先(当日参加も可)です。
件名を「プラト読書会」とし、お名前、ご所属を明記
のうえ、

eturan61@adm.kyoto-u.ac.jp
宛にメールでお申込みください。
多数のご参加をお待ちしております。



図書館職員は見た！吉田南総合図書館外壁等工事の一場面

騒音や塗料臭などで利用者の皆様にはご迷惑をおかけしていますが、工事は予定どおり(?)進んでいるようです。

Twitter フォロワーの皆様は既にご存知だと思いますが、吉田南総合図書館の屋根の工事も着々と進められており、こんなふうにもなっています。



工事終了予定は、1月末。
あと少しです！防護シートの
ベールを脱いだとき、ひさしの
雨漏りが直り、外壁も屋根も
美しくなった図書館の姿が
皆様の目の前に現れるはず…。
乞うご期待！

International Conference in UK



「国際学会に参加する」と一言と言っても、いったいどんなものなのか？

今回は、昨年の夏休みに英国で開催された「国際認知言語学会^{*1}」で発表された人環院生のAさんにインタビューをしました。

国際学会に参加することによって彼が得たものは、どんなものだったのでしょうか？



■ 最初にご所属とご身分、ご自身の研究テーマについて教えてください。

人間・環境学研究科の博士後期課程に在籍しています。研究テーマについては、主に言語表現に対する不自然性の認識の要因の解明を主たる目的としています。言語表現を不自然に感じる場合としては、極端なもので言えば例えば「花子が太郎を褒めた」に対する「が花子太郎褒めたを」があります。他にも「そこに二羽の鳥がいる」に対して「そこに二羽の飛行機がいる」は不自然な例ですね。こういった「不自然」という感覚が何を原因に生じているかを実験を通じて明らかにしていく研究を行っています。

■ 学会に参加したいきさつを教えてください。

そもそも学術発表の中心である国際学会で発表をしたいと、かねてより思っていました。それに実用的な意味でも、国内より国際学会の方が業績として価値が高いというもある程度ありうと思ったので、そういう意味でもできるだけ英語で論文を書き、発表したいという気持ちを持っていました。

■ 学会の内容はどんなものでしたか？

メインとなるのはもちろん自分の発表（15-20分くらいになります）ですが、他に、自分が興味のある発表を聞き、普段は接することのない人と積極的に交流しました。実際、この「交流」が学会に参加する大きな目的のひとつでもあると考えています。会場の外にラウンジがあり、発表の合間などは、参加者がそこでくつろいだり、話したりしています。そういった人の中には、自分が普段読んでいる本の著者がいらっしやったりするので、そういう人に「本を読んだんですけれど」と話しかけたり、自分の発表の際に質問してくれた人に声をかけたり、また、自分の興味のある他者の発表を聞いた後に自分から声をかけ、「この部分についてもう少し聞かせてください」と話しかけたり、「自分もあなたと近い研究をしているので、是非今後何かあったら共同研究しましょう」と声をかけたりしていました。学会は、自分の発表だけではなく、自身の研究を通して他の人の意見を直接聞くことができる場所でもあり、普段の研究の過程でもややもやしているものについて、直接相手に聞ける場所でもあります。

■ 学会の参加者数は？

発表する人だけで400-500人くらいじゃないでしょうか。日本人の参加者は、感覚ですけど30人くらいはいたのではないかと思います。

■ 学会参加のメリットは何ですか？

研究手法や研究対象に関しても国ごとにトレンドが違うので、**同じ国（日本）の中では得られない知見**が得られます。それから、先ほどお話しした内容と被る部分があるのですが、研究の業績のために発表するということと併せて、**学会に行く理由のひとつは交流**が大きいと思います。自分の発表を通じて、意見を貰う、もしくは、他の人の意見を直接聞くことができる。この意義はとても大きい。だから、ただ単に学会に行って発表して、誰とも交流せず帰ってくるというのは、学会に参加する意義の8割くらいは消えていると思います。

■ 学会前にどのような準備をすべきですか？

1. **自分の研究発表については、早めに用意する**ことです。発表は英語になるので、早いうちから研究室の仲間や友人の前で何度も発表の練習をしました。

2. 海外の研究者と直接交流することになるので、**英会話の対策も必須**です。特に聞く・話す、を意識的に練習しました。

3. **学会に来る先生の研究に興味がある場合は、先に直接メールなどでコンタクトを取っておく**こともできます。先にコンタクトをとって、自分のことを知っておいてもらとう当日会った時にスムーズに話ができると思います。

4. **学会のシンポジウムで話される先生に関連する本を読んでもおく**いいと思います。英語の発表を聞くわけなので、前提知識がない状態だと理解するのが大変だと思うので。

それからこれは学会発表の際のアドバイスなのですが、**完全に文面を用意して読むのはやめたほうが良い**と思います。文語と口語は違うので、文章にしたセリフはどうしても聞き手にわかりにくくなるし、発表する人自身のためにもよくないと思います。僕の場合は、喋る内容(要点)を事前にしっかり練習して頭に入れておき、細かい表現はアドリブでやりました。内容がちゃんと入っていれば、聞き手がわからなさそうにしていたら補足したりもできますし、自分の言葉で発表ができるので、理解してもらいやすくなると思います。

■ 先ほど英会話対策についてお伺いしましたが、具体的にどのようなツールを使われていたのですか？

僕の場合、リスニングはBBC^{*2}を聞いていたのですが、最初は話す速度が速くて、聞いていても理解できなかったので、ゆっくりきれいな発音で話すポッドキャスト（English as a Second Language (ESL) Podcast)を利用していました。それがわかるようになってきたら、多少ゆっくりとおしゃべりするもの（Speak Up Radio)に乗り換え、それにも慣れてきたらBBCを聞くようにしました。この効果はかなりあったと思います。最初から速度の速いものを聞いていても、何を言っているかわからないと集中力が続かず意識が離れてしまい、結局聞いていないことになります。それだと意味がない。聞こえないままだと長時間聞き続けることはできませんが、理解できれば聞き続けられます。まず自分の身の丈にあったリスニング教材を選ぶのが大事になるのだと思います。

それから、頭の中の思考で何かを考える時の言語を英語にするようにもしました。頭に浮かんだことを全て英語にする作業は、最初のうちは結構大変でした。やり始めた当初は日本語で考えが浮かんでくるので、英語に翻訳し続ける感じがしばらく続きますが、次第に日本語を介さなくていいようになってきます。僕はそうなるのに2-3か月くらいかかったように感じますが、真剣に続ければ1か月くらいでできるようになるのではないのでしょうか。

先ほどもお話ししましたが、実際に声に出して話す練習は、基本的に発表の練習を通してできます。また、同じ学会に出席する友人と定期的に会い、英語でディスカッションをしたり、留学生とランゲージエクスチェンジ^{*3}をしたりと、意識的に英語を使う機会を増やすことが大切です。この方法なら聞くことも考えることも英語になるので、英語漬けには一応なります。

■ 英語の発表の聞き方について何かコツはありますか？

特別なものがあるわけではないと思いますが、**全部を聞こうとしない**ことがひとつ大切になってくるのではないかと思います。研究発表の核となるのはその発表の主張であり結論ですから、研究の内的妥当性（実験の仕方が正しいかどうか等）をチェックするのでもない限り、全てを100%聞き取り理解する必要性は薄いと思います。極端な話、**研究発表を理解するには、全部解らずとも最低限結論部分さえ理解できていれば良い**のではないのでしょうか。

基本的に話を聞いて理解する時には、言語表現を聞き取るだけでなく、同時に色々な事を行っています。例えば相手の発言の意図であったり含意であったり、前提としている事実を補って理解したり、研究発表を聞く時にはその内容の妥当性や自分の考えを同時に思案したりします。ただ、これが母国語だと容易にできるのですが、外国語だと難しくなる。言語表現の処理自体により多くの労力が必要になるので、それだけでいっぱいいっぱいになってしまう。だからこそ、全て聞こうとしないことが大事ですね。抽象的な言い方になりますが、重要なところとそうでないところを見極めて、意識を抜くところは抜く。ただ、研究発表の構成が人によって違うので、こうしたらいというのが難しい所もあります。

英語を聞き続けることは実際結構しんどかったです。基本的に理解はできますが、英語は変異（方言的な差）が激しいため、全然聞き取れないような英語を話されると困りました。それから日本語の場合は、次に相手がどのようなことを言ってくるかや、こういうことを言いたいんだろうなということを予想して聞くことができますが、外国語だとシミュレーションが難しいことも怖い点です。予想外の事がくるとそれだけ理解に労力と時間がかかるので、次々と話される内容についていけなくなってしまったりします。

それから、これは英語全般についてのアドバイスになりますが、**英語が聞き取れない、話せない時、全て自分の責任だと思わなくていい**と思います。もちろん自分の不勉強もあるかもしれませんが、それだけではないことも多い。実際、第二言語として英語を話す外国人の英語は単語も文法もぐちゃぐちゃのことがよくありますが、皆自信満々で喋っていました。「これが我々の英語だ」という感じで。それでも日本人より遥かにコミュニケーションができています。

日本人はすぐまじめだと思います。英語に関しても、ネイティブの発音にあわせよう、正しい文法で話そうと思うのですが、他の国の人はそのままで気にしていません。要は**言っている内容が重要**です。自分たちの話す英語に誇りを持つべきだと僕は思いました。

■ 学会に参加された感想を一言お願いします。

一言で言えば、良い体験でした。今後も、さらに国際学会に参加していきたいですし、参加していかなくてはいけないと思います。それから、**学問全体に貢献する気があれば、英語で発表しないのはおかしい**と身に染みて感じた瞬間でもありました。だから、**自分が書くもの、発表するものはできるだけ英語にしていけない**といけないなとも思いました。正直、英語で発表しないと「やばい」です。日本にいと日本語が基準になってしましますが、国外ではそもそも英語が基準になっています。英語で発表するほうが実用的ですし、思想的な面でも、学問に対して誠実である。研究分野に敬意を払うのであれば、英語を使用することが誠実であると言えるのではないかと思います。

■ ありがとうございました。

*1 国際認知言語学会：国際認知言語学会第13回全国大会（ICLC-13 The 13th International Cognitive Linguistics Conference）<https://www.northumbria.ac.uk/about-us/news-events/events/2015/07/iclc-13-the-13th-international-cognitive-linguistics-conference/>

*2 BBC：英国放送協会 <http://www.bbc.com/>

*3 ランゲージエクスチェンジ：言語交換。異なった言語を話す二人以上の人たちがお互いに相手の言語を練習すること。

開館日程表

1月

■13日(水)

冬季特別貸出図書返却期限日

■14日(木)

グレート・ブックス読書会

「ソクラテスと「哲学の始まり」—

『ソクラテスの弁明』を読む」

コーディネーター：阿部将伸さん

■28日(木)

グレート・ブックス関連企画「グレート・ブックスと私」第2回：講演会

講演タイトル：「老子・萩原朔太郎」

講師：安部浩 先生

後期試験期のため28日(定例休館日)も開館いたします。



「環on(わおん)」(人環棟1F)

開室：平日9:00-17:00

本館の定例休館日も開室

休室：土日祝日ほか

(本館の休館日と同じ)

9:00-20:00

10:00-15:00

休館(日・祝日)

定例休館日

1

12月29日-1月3日：冬季休館

日	月	火	水	木	金	土
					1	2
3	4	5	6	7	8	9
10	11	12	13	14	15	16
17	18	19	20	21	22	23
24	25	26	27	28	29	30
31						

2

日	月	火	水	木	金	土
	1	2	3	4	5	6
7	8	9	10	11	12	13
14	15	16	17	18	19	20
21	22	23	24	25	26	27
28	29					

3

3月25日-4月3日：春季休館

日	月	火	水	木	金	土
		1	2	3	4	5
6	7	8	9	10	11	12
13	14	15	16	17	18	19
20	21	22	23	24	25	26
27	28	29	30	31		